

三重県東員町から送る、みんなをハッピーにする新聞



TOIN GOOD NEWS PRESS

2022 07

とういんグッドニュース新聞 03



ぐつとくる

思わず私が「切ないな」と、つぶやくと、娘が「どうしたの?」と聞きました。わけを話しているうちに、公園内にたくさんのお菓子のゴミがあることに気がつきました。娘は、「わたし捨うわ。だって、公園も駄菓子屋さんも大好きだから」（ほかの人が捨てたゴミを自分の子でもが捨うのか……）心の中で一度、考えましたが、（いや、せっかくこの子が自分で考ふたことを行動に移そうとしているのに私が止める理由はないな）

同じ日の夕方に公園へ行くと、ベンチにその箱が置かれていました。公園にはもう誰もおらず、どうやら捨てられてしまったようでした。公園のベンチにさみしく置き去りにされたかわいいお菓子の箱は、もとの持ち主を失つて、もうすぐ「ゴミ」になろうとして

大箱が売り出されているのを見ました
お菓子は入っていない、箱のみの商品です。
駄菓子を仕入れる時に使われるので
この大箱には、かわいいイラストが描
かれています、ふだんはお客様が手に
することもないそれは、駄菓子屋さん
の遊び心で店頭に並べられていましたので
す。

娘は小さい頃から近所の公園が大好きで、小学4年生になつても「公園の管理人」です。

最近、近所に昔懐かしい駄菓子屋さんができ、娘たちもその魅力に取りつかれて、足しげく通つていました。

春休みになると、元気な子どもたちは1日に何度も公園と駄菓子屋さんは往復。微笑ましい風景でした。

公 園 管 理 人



(愛知県・あさくらさん・41歳)

るよ。な 素晴らしい経験ができるでし
るのではないかと思います。

思つたことを素直に行動に移し、そ
れを見た人が共感してくれて、その輪
がさらに大きくなる。娘もそれを実感
して、今後の人生においても財産とな
るよう、愛情うつ、怪談ができて、い

そう思い、家に戻つてゴミ袋を渡しました。そして一緒に公園に戻り、私は手伝うわけではなく、茂みのゴミを拾う娘を見守りました。

5月から東員町内の学校にて、グッドニュースの文・絵の募集がはじまりました。児童のみなさんや先生方から早くも続々とお寄せいただいているニュースを、今号からどんどんお届けしてまいります！

あさがお

(稻部小学校・1年生)



▲あさがおがげんきにそだつてるのは、とてもよくわかるえだね！



▶元気においさつするだけで、みんなあたたかい気持ちになれるよね！
(笛尾東小学校・4年生)



▶元気いっぱいのカマキリ！ 大切にそだててあげてね！
(笛尾東小学校・3年生)

親切な人たち

私が、集合場所に行くとき、おうだん歩道をわたるとき、いつも車に乗っている人たちが止まってくれるので、とても心やさしいなと思いました。

もう一つは、毎日登校しているとき、知らない人だからじゃなくて、だれでも関係なく、通りかかつたら「おはようございます。」など、あいさつをしてくれるので、とてもすばらしいと思いました。

学校内でも、学年関係なくあいさつするすがが見え、なぜかとても幸せでした。学年をこえて、仲よくできているなと思いました。

このような人たちがたくさんいます。もっと親切がふえれば、東員町は、もっとべんりで、だれもが安心できるところになると思いました。

▶元気においさつするだけで、みんなコーヒーぎゅうにゅうを飲みたいね！
(稻部小学校・4年生)

▶またみんなでおんせんに入つて、

▶しあわせを見るだけできんちょうしちゃうけど、さいごまでひけてよかつた！
(稻部小学校・2年生)

▶きつと、とびださずに待つて、車も気づいてくれたんだね！
(稻部小学校・4年生)

▶たくさんお話をできて、きっとママもうれしかったと思うよ！
(稻部小学校・4年生)

おんせん

わたしは、おばあちゃんといつしょに、おんせんにいきました。わたしは、おんせんが大きです。

わたしの一番のおたのしみは、おんせんにはいってからのぎゅうにゅうです。わたしはコーヒーぎゅうにゅうがすきです。ぎゅうにゅうをのんだら、はーってなるからすきです。

おばあちゃんといくので、おばあちゃんの友だちも、いつしょにはいります。

あちゃんの友だち3人で、はいったときもあります。

コロナで、その友だちと、いもうとと、わたしと、おばあちゃんだけです。コロナがないときのほうがたらよかったです。

また、4人だけでなく、たくさんの人ではいりたいです。

▶えを見るだけできんちょうしちゃうけど、さいごまでひけてよかつた！
(稻部小学校・2年生)

ピアノ

わたしは、ならいごとのピアノを、いつもがんばっています。いつも、おとうさんといつしょにやっています。いろいろむずかしいです。ピアノもいつしょうけんめいして、がんばっています。

ピアノのはつぴようかに2かい

で、ちょっとまちがえたけど、さ

んとも、いつしょにひきました。

▶えを見るだけできんちょうしちゃうけど、さいごまでひけてよかつた！
(稻部小学校・2年生)



ママが早くかえってきた

今日は、ママが早くかえってきて、うれしかった。いつもは5時51分ぐらにかえってきて、あんまり話せなかつたけど、さいきんは早くて、いっぱい話せてうれしかった。ママは車のタイヤの中の、まんなかのものうをつくるらしい！（それをぬるらしく）

▶ママとのかいわ

わたし「なんでさいきん、はやいの？」

ママ「中国からくるぶひんが、せん

そうでこないし、コロナで人もこな

いから、ぜんぜんじごがないの」

わたし「へー、やっぱり、よのなかつて、むずかしいね」

ママ「そうよ」

▶たくさんお話しできて、うれしかった！
(稻部小学校・4年生)

▶たくさんお話をできて、きつとママもうれしかったと思うよ！
(稻部小学校・4年生)

我が校のグッドニュース

先日、地域の方からうれしいお話をいただきました。

学校近くにお住まいの女性の方で

した。日曜日の夕方、買い物帰りに

中学校の前の道を自転車で通りか

かったところ、バランスをくずして

しまい、自転車ごと倒れてしまわ

たそうです。そこへ、通りかかった

中学生男子が自転車を起こし、散ら

ばつた荷物も拾つて集めてくれたそ

うです。

その女性は、おかだらが思うよう

に動かない部分があり、そのお話し

ぶりから、からだを不自由にされ

いるようでした。「今の時代にこん

なに優しい、よい中学生がいるもの

だと本当にありがたく、うれしかつたのでお電話しました」と言われま

した。

中学校の教員をしていると、地域の方からいろいろなお電話をいたします。当然、よいことばかりの電話ではないのですが、こんなうれしいお電話をいただくと、こちらまで心がホッコリとします。そして、地域の方にも誇れる我校の生徒と、そんな生徒の成長を支えてくれているご家庭のみなさん、我校の先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

(東員町立東員第一中学校
理科好きの国語教師)

神田ブルーレイズ、チームワークでナンバー1

5月28日、29日に開催された高円宮賜杯第42回全日本学童軟式野球大会マツドナルド・トーナメントの三重県予

選大会において、東員町内のスポーツ少年団野球チーム「神田ブルーレイズ」が見事、優勝を果たしました。

て打つので、ミートポイントが近いのです。



この大会には、三重県内の軟式野球連盟の11地区から16代表チームが参加し、今回は、桑名支部、四日市支部が会場となって開催されました。

桑名支部代表として大会に臨んだ神田ブルーレイズは、1回戦で鈴鹿支部代表の加佐登ウイングススポーツ少年団に6対5で勝利し、2回戦は津支部代表の栗葉少年野球部に12対11で勝利して、準決勝に進みました。

私は、大会2日目の神田ブルーレイズの試合を準決勝戦、決勝戦と見ることがきました。

試合をバックネット裏から観戦していく、特に印象に残ったのは、全選手がほとんど三振をしないことでした。ボールを呼び込み、しつかり引きつけ

全選手共通の意識が、よくあらわれているように感じました。まさにチームプレイの賜物ではないかと、すっかり感心してしました。

試合は、準決勝戦で熊野支部代表の金山スポーツ少年団に5対3で勝利し、決勝戦では亀山支部代表のスマーリスボーツ少年団に6対4で勝利しました。選手みんなが、チームプレイに徹しながら、でものびのびとプレイしていました。決して大振りすることなく、しっかりとミート。このバッティングで、全国大会でも活躍してほしい。さらには、中学校、高校、大学にと、生涯スポーツとして楽しく野球を続けていってもらいたいと期待しています。

「ブルーベリージャム」が給食に提供されました。このブルーベリージャムは東員町内で栽培されたものを給食センターでジャムに調理したもので、町内保幼小中学校の子どもたち約3000名が食しました。

この日、給食のワゴンには、クラス分の濃い紫色をしたつやつやのブルーベリージャムが入ったボウル容器が運ばれました。給食担当さんにより、一人ひとりのお椀(わん)の中出来たてのみずみずしいジャムが盛られました。いつもなら、ビニール容器に入った市販のジャムがお盆の上にのせられ、ビニールの端をちぎり落として、ジャムをパンに押し出して食べていました。しかし、今回は逆です。パンを手でちぎり

ファームとういんさんに農園事業をお願いすることとなりました。シグマファームさんは農福連携の取り組みを行っている事業所さんで、障がい者の方が農作業等を行い、賃金を得る場となつていると同時に、農業の担い手としての役割も果たしています。将来的に、作物栽培が拡大し商品化され、地域の特産となれば大きな地域貢献となり、障がい者さんの就労が拡大していくことにつながります。実際に、徐々に就労者が増加しています。

ブルーベリーに関しては、同年、苗木500株をポット栽培することになりました。葡萄はハウス内栽培にして育てています。予想以上に順調によく育ち、3年後の平成29年にはたくさんの

ジャムにしていきます。調理員さんは、焦がさないように丁寧にじっくりと運んでいます。

このようにしてできた「手作りブルーベリージャム」は、毎年1回の月に提供されるようになりました。この数年続いていましたが、年によっては不作のときもあり、そのときには残念ながら提供されません。毎年楽しかったので、豊作を願っている次第です。今年の出来具合はどうだろうと期待しているところです。

（東員町立神田小学校
朝日の差す田園さん

東員町の挑戦

新産業構想による東員町産ブルーベリー・葡萄を給食へ

東員町産ブルーベリ

リード葡萄を給食へ



娘とパパのつながりを保つ。ポテトサラダ

10年前の11月5日に娘は生まれまし

た。36時間に渡る陣痛に耐えて出産してくれた妻に感謝しつつ、あつという間に10年が経過しようとしています。

現在、娘は小学4年生になり、Y.O

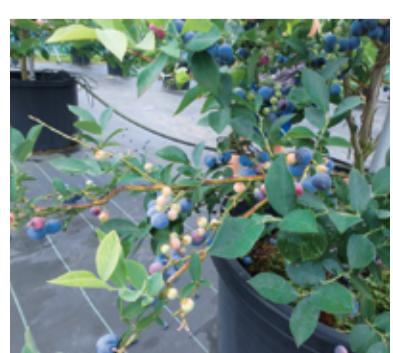
YouTubeやニンテンドースイッチに魅了される日々を過ごしています。

そんな娘ですが、最近では年頃の女の子ということもあり、私が帰宅しても

「おかえり」、寝る時も「おやすみ」すら言ふこともなくなつてきました。元

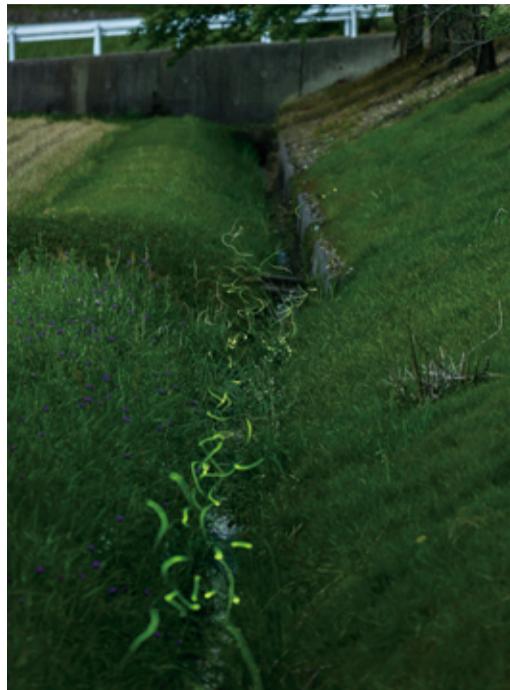
気に成長する姿に喜びつつも、父親としては、どこか寂しい思いを感じることが多くなってきました。

(川越町・3優のパパ・42歳)



大木で見たホタルの優しい光

(東員町・鈴木歩・40代)



昔、廃校となつた立田小学校では、学校と地域が一体となつて、ホタルを育てて川に戻す、という活動をされていました。その立田小学校に長く勤めてみえた佐藤俊介先生に、ホタルの生態について写真を使った解説をしていただいてから、実際に見に行きました。

観察していると、なぜか車通りの多い、妙なところでも、ホタルがたくさん飛んでいました。

生き物のすることには、必ず理由があります。きっと、エサのカワニナという巻き貝がたくさんいる場所なのでしょう。

昔、立田小学校では、児童たちがホタルの研究発表をしていました。ホタルは、4月の雨の日に幼虫が川から陸上します。

ホタルも、ホタルが住む川も里も大切にしていきたいと、あらためて思いました。

50数年前、猪名部神社の春の大祭には馬に跨って橋を渡った。橋の上で、祭りのはじまりを告げる花火の音に驚いた馬が、前足を上げて立ち上がった。振り落とされば、欄干を越えて川まで落ちそうだった。橋を渡ってしまうと、神社の急坂を馬で駆け上がる危険

50数年前、猪名部神社の春の大祭には馬に跨って橋を渡った。橋の上で、祭りのはじまりを告げる花火の音に驚いた馬が、前足を上げて立ち上がった。振り落とされば、欄干を越えて川まで落ちそうだった。橋を渡ってしまうと、神社の急坂を馬で駆け上がる危険

50数年前、猪名部神社の春の大祭には馬に跨って橋を渡った。橋の上で、祭りのはじまりを告げる花火の音に驚いた馬が、前足を上げて立ち上がり、馬から降りたくなかった。そこを灯した提灯を手に、馬で橋を渡つて帰った。夕闇のせまる橋の上で、疲れ切った馬はもう立ち上がることはない。安堵と祭りの終わるさみしさが入り混じる。橋を渡り終えても馬から降りたくなかった。

ここ数年、スポーツ自転車に乗り始めて、自転車で橋を渡る機会がふえた。中学生、高校時代には毎日の通学に自転車でこの橋を渡っていた。車で渡ればほんのひとまたぎで越える橋がまた長くなつた。橋から川の上流を眺めると、光る流れの向こうに季節の色を映した鈴鹿の山並みが連なる。私の原風景だ。ふるさとはむかしのままでここにある。

5月末、いなべ市の瀬木にホタルを見に行きました。

昔、廃校となつた立田小学校では、学校と地域が一体となつて、ホタルを育てて川に戻す、という活動をされていました。その立田小学校に長く勤めてみえた佐藤俊介先生に、ホタルの生態について写真を使った解説をしていただいてから、実際に見に行きました。

観察していると、なぜか車通りの多い、妙なところでも、ホタルがたくさん飛んでいました。



ホタルはカワニナを食べる

に上がつて土に
繭を作ります。
その日から平均

橋を渡る

母の里は、員弁川の川向こうにあります。盆と正月の母の里帰りや報恩講という年に一度の法事には、妹と私が母の両手にぶら下がるようにして、歩いとや、祖母のくれる駄菓子が楽しみで、踊るような足どりで橋を渡つた。そのころ、大社橋は今よりも狭くて小さかった。

50数年前、猪名部神社の春の大祭には馬に跨って橋を渡つた。橋の上で、祭りのはじまりを告げる花火の音に驚いた馬が、前足を上げて立ち上がり、馬から降りたくなかった。そこを灯した提灯を手に、馬で橋を渡つて帰つた。夕闇のせまる橋の上で、疲れ切つた馬はもう立ち上がることはない。安堵と祭りの終わるさみしさが入り混じる。橋を渡り終えても馬から降りたくなかった。

ここ数年、スポーツ自転車に乗り始めて、自転車で橋を渡る機会がふえた。中学生、高校時代には毎日の通学に自転車でこの橋を渡っていた。車で渡ればほんのひとまたぎで越える橋がまた長くなつた。橋から川の上流を眺めると、光る流れの向こうに季節の色を映した鈴鹿の山並みが連なる。私の原風景だ。ふるさとはむかしのままでここにある。

堪能しました！
存分に
三重ダービー、

な神事が待つて
乗っこに乗せるだ
ろうかと
いう不安や恐れが
一つのる。
それでも

カズ見たさに軽い気持ちで取つたチケットだったけど、4対1でヴィアティン三重の快勝！

大先輩に借りたサイン入りのハッピケットだつたけど、4対1でヴィアティン三重の快勝！

久しぶりに友人とも会えたり、知り合いにも声をかけられたりして、「一緒だつたんだね！」と、思いがけないつながりも実感！ コロナは人と人のつながりを蝕むと思うけど、スポーツはそれをつなぎ合わせてくれるものだと確信できた1日でした！

(桑名市・Be positive!・57歳)

とういんグッドニュース新聞は、全国から届けられた身近なグッドニュースでつくられる新聞です。健康と活躍のまち東員町から、毎月ポジティブな話題を発信しています。ぜひ、あなたのまわりのグッドニュースをお寄せください！

（桑名市・Be positive!・57歳）

（桑名